

ONE COATING の 効果期間の目安について

家具・インテリア製品に対するONE COATINGの効果期間の目安は、3年程度とお伝えしております。

この3年は、機能が無くなるまでの期間ではなく、家具・インテリア製品にとって、適切と考えるケアの周期となります。

ONE COATINGは、この3年の周期に合わせて、各機能の効果検証を行っています。

■劣化が進む主な要因

家具・インテリア製品の劣化が進む要因は様々ありますが、主なものは以下の通りです。

・「使用による摩耗」

素材やアイテムによって、機能性が低減する原因は異なりますが、家具の場合、「摩耗」となります。

使用による摩擦や体重負荷によって、徐々に素材表面の減耗が進み、機能性が落ち、劣化が進みます。

・「汚れやごみの付着」

簡単に洗うことができないので、水性、油性、汗などの汚れ成分が染み込み、さらにホコリやゴミが堆積します。

それらが酸化したり、カビやダニの原因になり、劣化や汚れが進行します。

・「合わないケア用品の使用」

例えば、消臭や除菌等を目的に使用されるケアスプレー。

含まれる成分が原因となって、素材を傷めたり、汚れの原因になったりし、劣化を早めているケースが見られます。

■適切なケアの頻度

利用シーンや使用頻度にもよって変わりますが、家具・インテリア製品の適切なケアの頻度は3年を想定しています。

衣類等と違い、家具・インテリア製品は、簡単に洗うことができないアイテムです。付いたホコリやゴミだけでなく、付着した水性、油性、塩分など様々な汚れ成分を、定期的に取り除くことが必要です。

商業施設やホテルなど、不特定多数の人に使われる家具・インテリア製品の場合は、汚れる頻度や付着量も多いため、1年ごとの清掃やクリーニングをお勧めしています。

適切なタイミングで、適切にケアをすることで、家具・インテリア製品だけでなくモノは、綺麗に長持ちさせることができます。

■効果検証を確認する試験の特性

基本的に、「効果がいつまで続くのか」という視点の試験はありません。また、使用環境やケア状況でも大きく変わります。

家具の適切なケアの頻度として3年を推奨していますので、効果検証を確認する試験条件としても、3年分の負荷を設定し、機能性が基準値以上を保っているか確認しています。

負荷は、家具の場合、「摩耗」を想定しています。試験を行う時は、同一条件で、

(1) 未加工品

(2) 加工品

(3) 3年分の負荷を加えた加工品

の3回の試験を実施します。

(1)未加工品に比べて、(2)加工品に基準値以上の機能性が発現しているか、3年分の負荷を加えた加工品に、基準値以上の機能性が維持されているか、検証を行います。

■機能ごとに異なる持続性

機能ごとに、使われている技術は異なります。その為、効果の持続性も、機能ごとに異なります。

機能ごとの持続性の特徴は、以下の通りです。

・消臭、除菌、抗菌、抗ウイルス

3年を想定した摩擦後の機能低減率は「0%」。

洗濯100回後の機能低減率は「0%」。

このことから、摩擦や洗濯で、簡単に有効成分が剥がれず、持続性が高いことを確認。

・撥水、撥油

3年を想定した摩擦後に、塗膜の剥がれがなく、変退色の劣化がないことを確認。

・防ダニ、防虫

3年を想定した時間経過処理後(指定される熱処理)に、機能低減率が軽微で、基準値以上の機能性を維持していることを確認。

■まとめ

家具・インテリア製品における、ONE COATINGの効果期間の目安は、特性やケア期間をもとに、3年を推奨しています。

期間が経過すると、直ぐに効果がなくなるという訳ではありませんが、利用シーン、ケア状態で前後もしますので、機能が弱くなったと感じられたら、再加工をご検討いただければと思います。